

教務だより

2017年5月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

両立を可能にする「優先順位」

茗溪塾塾長 宇野雅春

ゴールデンウィークが過ぎると途端に忙しくなります。爽やかな5月という表現もありますが、時として真夏日もあり、体力の消耗感が出てきます。疲れている者同士ちょっとしたことでムカッときたりする頃なのです。上がらない成績にいら立ち、次々と出てくる課題の山にいら立つのは、仕事をしている大人でも直面します。

家庭内でのトラブルも増えるので気をつけましょう。中学生は部活動が忙しくなります。一方どんなに忙しくても、学生である以上勉強を疎かにすることはできません。長い人生なんだから緩む頃もあっていいというのは、一理あるのですが、後で考えると取り返しのつかないことだったりします。自分の可能性を最大限に生かそうと考えれば、部活と両立させる経験はその両立経験自体が将来に大いに役立つことに違いありません。

多忙な生活の中で自分にとって最も大切なことに優先順位をつけ、何が何でもそのことだけはやり遂げるということなのです。だからといって他のことすべてを犠牲にするわけではありません。大切なことを優先しつつ、その隙間にいろいろとやらなくてはならないことを埋めていきます。この考えに出会った当時、私は家に帰る日もなかなかままならないような「多忙」の中にいました。休みも数カ月取れないことも珍しくなかったのです。

休むとその休んだ分面倒な課題がたくさん出てきて、仕事を継続的にやり続けていた方が楽と決めつけていました。最初は「優先順位」という言葉だけが頭に入ってきたと思います。

仕事より大切なこと…家族の病気や家族の行事…考えた挙句「これは優先しよう！」と決心してことを優先するのですが、これなら仕事をしていた方が…と思うことも多々ありました。仕事を引きずっての家族の行事も心から楽しめるという事は少なかったように思います。そのうち自分が常に「緊急で重要な事柄」に追いまわされていることに気がつきます。

そしてそれが人生の生きがいと思ひ、生活のテンポの速さが、自分の能力と思うようになったのです。そうこうしているうちに実は「優先順位」付けをしていくポイントが、「計画を立てるという事」に気がつきます。確かに子育てや介護そして仕事と何重もの多忙が自分を取り巻いていました。完全に克服できないままではありましたが、多少はこの「計画を立てる」という事で冷静になることができました。ものすごく大変な人でもなんとかやっているし、全く大変と思えない人でも「大変なんです！」と騒いでいることに気づいたのです。この違いが出てくる理由は、「一番大切なことを優先するという習慣」つまりどうでもいいことには NO という勇気、そして「計画を立てる」という行為にあるのではないかと気づいたのです。

完全に緊急中毒を卒業したとは言えないのですが、自分の本当にやりたいことを仕事以外にも加える余裕が生まれたのは事実です。部活に追われる生徒の様子を見ながら、でも部活があったから受験はうまくいかなかったとか、なりたい夢をあきらめたとかは、あってはならないことだと思うのです。「優先順位」について考えてみてほしいと思います。